

あなたに薦める『この一冊』2月

『エイジ』 重松清著 新潮社

理科教諭 楠原 純平
高校1年15組 担任



東京郊外のニュータウンに住むエイジは中学2年生。ある夏、彼の住む町に**連続通り魔事件**が発生し、そして捕まったその**犯人は、彼の同級生**だった。その日を境に、エイジは人は一体何を考えて生きているのだろうか。ぼくもいつか同じように**キレてしまう**のだろうか。と、考えるようになります。

この本は私が10年ほど前、当時の赴任校で仕事の合間に職員室で読んでいました。きっかけは教室に置かれてある読書用の本をたまたま手に取ってみたことでしたが、家族やクラスメイト、部活動のバスケットボールや好きになった女子への思いなど、様々な出来事や悩みを通して、主人公が成長していく様子に、普段はあまり読書をしない私でしたが、引き込まれるように読んだことを覚えています。難しい表現がほとんどなく、文章からシチュエーションをイメージしやすいため、読書に慣れ親しんでいない人にとっても、すごく読みやすいと思います。

私がこの本を読んだのは大人になってからですが、できれば**中学生、高校生であるあなた方に読んでほしい**と思い、この本を紹介します。

● 著者『重松清(シゲマツ キヨシ)』豆知識 ●

[1963-]小説家。岡山の生まれ。フリーライターを経て作家となる。現代社会における家族のあり方を新鮮な視点で描き、人気を集める。「ビタミンF」で直木賞受賞。他に「ナイフ」「エイジ」「定年ゴジラ」など。

出典：デジタル大辞泉, JapanKnowledge Lib

● その他図書館所蔵図書 ●

不朽の名作から新作まで



・ はじめての文学：重松清 文芸春秋

小説はこんなにもおもしろい。文学の入り口に立つ若い読者へ向けた自選アンソロジー。さりげない家族の風景や、ささやかな出来事から、心に沁みる情景をつぎつぎと紡ぎだしてゆく重松清の絶妙な語り口を味わう短篇8篇。

・ きみの友だち 新潮社

恵美ちゃんと由香ちゃんは、ある事件がきっかけでクラスのだれとも付き合わなくなった。学校の人気者は、デキる転校生が何となく面白くない……。優等生にひねた奴。弱虫に八方美人。「友だち」のほんとうの意味をさがす連作長編。2008年映画化。



・ ブランケット・キャッツ 朝日新聞社

馴染んだ毛布とともに、2泊3日だけ我が家に「ブランケット・キャット」がやって来る。「明日」が揺らいだ人たちに、猫が贈った温もりと小さな光を描く7編。2017年ドラマ化。



・ きよしこ 新潮社

しゃべりたいことは、伝わるよ、きっと。たいせつなことを言えなかったすべての人に捧げる珠玉の少年文学！ 2021年ドラマ化。



★楠原 純平(クスハラ ジュンペイ)先生の紹介★

- *担当科目・クラス
物理基礎(高1年11組~17組)
- *星座→しし座
- *趣味→RPGツクール(PCアプリ)によるゲーム制作、ラノベ鑑賞
- *自分の中学・高校生活
よく学校帰りにゲームセンターに通ったり、家でゲーム三昧の学生でした。
(課題やテスト勉強はちゃんとしましたよ！)
- *本校生の印象
元気がよく、素直で礼儀正しい生徒が多いように思います。
- *感動した本
『ロウソクの科学』ファラデー著 角川書店
- *読むことが望ましい本
『バカの壁』養老孟司著 新潮社

・ OTOGIBANASHI 講談社



小説家とアーティストが出会い、新たな「物語」が生まれる——小説家の「歌詞」から生まれた5つの小説と楽曲。重松清は収録作「星野先生の宿題」及び「ステラ2021」を手がけている。



・ どんまい 講談社

「わたし、水原勇気になりたかったの」——離婚後のリスタートで、娘の香織を連れて草野球を始めたアラフォーの洋子だが、やはり現実には厳しい。迎えるチームの面々も、介護や子育てに悩み、リストラに怯え、いじめに傷ついて……。でも、合言葉は「どんまい！」。



編集後記：著者である重松清は、「小説とは『人と人とのつながりを描くもの』」だと言っています。新しい生活様式の導入・普及により、「つながり」の形も変化してきましたが、根底に流れる大切なものを汲みとれる人間でありたいですね。